

竹パウダーの初期土壌改良効果の検証試験

1 背景

令和2年度から実施している夏期のトマト、冬期の大葉しゅんぎくにおける竹パウダーの施用試験は、初年度は竹パウダー区の生育は良好であったが、以後はその傾向は見られない。この結果から、①竹パウダーには施用初期の土壌改良効果の高さと、②初年度のみ使用されていた A 県産竹パウダーの効能の高さが示唆された。

今試験では竹パウダー未投入の圃場において、①②に着目して試験栽培を実施する。

2 内容

- (1) 対象作物 大葉しゅんぎく
- (2) 実施圃場 総合農事センター土耕温室 B
- (3) 試験区

慣行区	試験区 A	試験区 B
竹パウダー なし	竹パウダー(小倉南区産) 100 g/m ²	竹パウダー (A 県産) 100 g/m ²
・堆肥 2 kg/m ² ・福岡有機 100 g/m ² ・牡蠣殻石灰 100 g/m ²		

- (4) 計測内容
 - ア 土壌分析（生育前後）
 - イ 乳酸菌の分析（生育前後）
 - ウ 地上部重量・全長

3 結果

(1) 計測結果

	No.	重量 (g)		全長 (cm)	
小倉南区	1	170.7	188.74	22	31
	2	94		34	
	3	241.5		33	
	4	251.5		38	
	5	186		28	
A 県	1	189	141.9	32	28.8
	2	136		35	
	3	137.5		30	
	4	101		23	
	5	146		24	
無施用	1	129	140.9	28	28
	2	189		32	
	3	80		18	
	4	137.5		27	
	5	169		35	

(2) 土壌分析結果

	乳酸菌数 (CFU/g)
小倉南区竹パウダー	3,060,000
A 県竹パウダー	4,550,000
小倉南区竹パウダー投入後の土壌	325
A 県竹パウダー投入後の土壌	775
小倉南区竹パウダー栽培後の土壌	0
A 県竹パウダー栽培後の土壌	0

(3) 総括

生育においては、小倉南区竹パウダーを投入した圃場が最も生育がいい結果となった。また乳酸菌数においては、小倉南区、A 県の竹パウダー共に差はあるものの検出されている。